優秀賞

みどりとともにゆっくり伸びる

山口　明彦　　福井県丹生郡　六十二歳

学校管理職の転任先は、突然申し渡される。新採用から普通科一筋で勤務してきた私の転任先は、職業系高校だった。思わず「なんで私が」という言葉が出そうになった。

赴任した当初、日に何回も「なんで私が」とため息が出た。特に農業科については全くの門外漢であり、農業教育の今後の展望など見当もつかなかった。そんな私を救ったのは、農業科の先生の一言だった。「校長先生、農業科の生徒は、草花や野菜と一緒に、ゆっくりと心が育つんですよ。」

職業系高校には、偏差値のふるい分けで不本意入学してくる生徒が一定数いる。その多くは入学当初から戸惑い、問題を起こす。様々な不適応症状に教職員は苦心惨憺する。そのなかで毎年生まれる奇跡、それが緑とともに伸びる生徒の心であるという。

種をまき、土が盛り上がり、芽が出る。みどりの命のたくましさに生徒の目が輝く。伸びた、折れた、枯れた、虫にやられた、実がなった。毎日変化するみどりの営みが生徒の表情を豊かにし、ともに笑い、ともに語り、ともに汗を流す人に育っていく。「なんで私が」と思っていた自分が恥ずかしかった。そして教員生活の最後に、生徒の心の成長に寄り添うことができる幸運に、本当に感謝した。

二年後、定年退職した私は家庭菜園をはじめた。畑を耕し種をまいた。第二の人生をみどりの命とともに心豊かに生きていきたい。生徒たちには負けないぞ、と気合いを入れて、今日も畑に向かう。